

人は死んだら

どうなるの？

人って、死んだらどうなるんでしょうかね？まあこういう事って、誰でも一度は考えた事があるのではないでしょう？特に、大病を患ったりとか、大出術を経験した事があったりね、愛する家族や、お身の死に直面した事のある方なら、そりゃあ気になるところだとは思いますが。では、もし人が死んだらどうなっちゃうんでしょうかね？天国って所に行つて、お空から私達の事を見守ってくれるようになるのでしょうか？

そこで今回は皆様が気になつている、人は死ぬとどうなるのか？ということについて、仏教的な視点から私の持論を交えながら、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。

あなたは、人が死んだらどうなると思ひますか？輪廻転生って言ひますけど、何かに生まれ変わつて、魂はずーっと生き死にを繰り返しながら、また別の人生を歩むんだとか、色々言われることはありますけど、実際どう思ひれますか？

私は輪廻転生はあると思ひています。

仏教では、私達が死んだ後どうなるのか？について、教えてくれているのかどうかについて、ちょっとお話ししていきますね。

仏教をお説きになったお釈迦様は、死後の世界については、「無記（むぎ）」と言つて、全くお答えにならなかつたとされています。つまり、死後の世界というものが有るのか無いのか？語られなかつた。ハッキリ明言されておられていません。それは何故かと言えば、お釈迦様は、嘘は勿論言わないし、あいまいなこと、間違つた事も絶対言わない人。つまり、お釈迦様自身も死後の世界を経験されておられない、だからそんなあいまいな世界のことには決して語られなかつたということ、お釈迦様は「眞実語者（しんじつごしや）」と呼ばれているわけですから。というのが、実は日本仏教界での常識とされているところなのです。が、しかし！これは、とんでもない勘違いで、実はシツカリと死後の世界を語つておられるという驚愕の眞実があるのです！それも仏典の至る所に確認できるわけです。この事は、日本のお坊さんも、学者レベルの方でないと、あまり知られていない事実ではないかと思ひます。だからお坊さんに死後の世界のお話を質問したら、「お釈迦様も語つておられません」なんてお答えになられるのが一般的だと思ひます。極端な話「あの世なんてそんなものは無いんだ！」みたいに仰るご住職様もおいでになるとか…。

日本仏教では、それが常識とされている部分もありますから致し方ないことではあると思ひます。ただし、お釈迦様はシツカリ死後の世界についても教えて下さつておられます。

では人が死んだらどうなるのか？仏教的には、肉体と魂は別個の存在で、魂の乗り物としての肉体を離れて、魂はあの世の世界に戻つて、また違う命として生まれ変わつてくるそうです。これを仏教では輪廻転生（りんねてんしよう）と言ひます。ではどこに生まれ変わるのか？と言つたら、これも具体的です。「悪いことをした人は地獄という世界に來世は転生するであろう」と断言されています。逆に「善いことをした人は、天界に生まれ変わります」と、これもはっきりと語られています。

では悪い事つて何？つて言つたら、「嘘をついて人を騙したりすること」です。そんな人は、死んだから後の世界は、地獄という世界に落ちるのだそうです。

でも仏教の教えは凄いですよ。もし悪いことをして、嘘をついて人を騙したりして、死後に地獄の世界に落ちたとしても、その人を地獄から救うことが出来るんです。と仰つています。その方法まで教えられています。他の宗教は天国に行つた人は天国。地獄に落ちた人は、永

遠に地獄の世界で苦しまなきゃいけない。救う手立てが無と教えられています。それに比べ仏教は、困っている人、苦しんでいる人を救う、間違つたことをして、それを許してあげる。「ごめんさい」と謝つて、今度からは嘘をついたりして悪いことをしない。みんなが気持ち良く、幸せになれるように、例えばゴミ拾いをしたり、トイレのスリッパを揃えたりして、次に使う人が、気持ち良く使つてもらえるようにと言う事を考えて、いま自分出来ることをしっかりとやっていきます。そういう人には、「慈悲」という、その気持ちを受け止めてあげる。許してあげる。許すだけではなく、今度は一緒に善い行いができるように努力していく。そんな事を教える宗教が仏教です。

そこで亡くなられた方をも「慈悲」という相手を想う気持ちで、救えるのです。どうやって救うのか？仮に地獄に落ちたとしても、生きている私達に何か出来る事はあるのか？これを考えるのも仏教です。

私達がいま生きている毎日の日々の中で行ふ、その行いだつたり、言葉遣いだつたり、心で思ふ思ひだつたりが影響して、地獄に落ちる人もいれば、天界に行く人もいます。行き先が変わります。

善行という善い行いをした人は天界に行けるし、悪行という悪い行いをした人

は地獄に堕ちると教えられます。遺された私達が出る事、それが善い行いを心がけて、その功德を亡くなられた愛する方へ手向けることによって、善行を手向けられた方の悪行を解消することが出来ると教えられています。

それではどうやって善行を手向けられる事が出来るのか？その1つが法事法要ですね。誰も完璧な人はいません。知らず知らず悪行をしてしまう事があるとあります。今度はご縁ある遺された家族や身内や知人友人達が、それぞれに亡くなった方の事を想って、様々な供養を行って善い功德を積むことで、亡くなられた方に少し善い世界に生まれ変わってほしい、転生してほしいという風に考えられたわけです。

つまり、遺されたあなたの助けが必要なのです。その人が知らず知らずのうちに作った悪い行いを解消してリセットするためには、ご縁ある皆さんの供養が必要になるのだと思ってください。だから、年忌法要や、毎月のお仏壇の前での読経を捧げ、お香を捧げ、お供物を捧げ、亡き人に、生前中の感謝と、安心してくださいな、という恩に報いる報恩の気持ちを手向ける。

これが慈悲という教えの実践になるのです。仮に地獄に堕ちた愛する家族をも救うことに繋がるご供養という方法になります。ご供養は、何時でも何処

でも、誰にでもできる愛情表現の形です。

慈悲の実践です。何かを御供えしなきゃいけない？極端な話、お供え物が無くても良いんです。その感謝と報恩の気持ちを捧げる事が何より大事な気持ちなのです。場所はお仏壇の前か、お墓の前か、お寺の本堂に行かなくてもいいのかな？それも気にする事はありません。思いを持ったとき、思いを持ったその場所で、心を込めて、祈りを捧げることです。何も必要ありません。何処でも良いのです。決まりはありません。ただ何より大切な、思いを手向けるという慈悲の心です。この心があれば、天界に転生することが出来るのだと、仏教では教えられています。そうやって、人が亡くなった後は、魂の階層を少しでも善きレベルに上げて、また人間として生まれかわり、立ち替わりしながら、滅びることの無い魂を、ご縁ある皆さまと共に、磨き合う一生を送るといわけなのです。

ちなみに、**仏教の目指す最終ゴールは、成仏することです。成仏とは「仏に成る」と書いて成仏と言います。**仏に成るとはどのような状態を言うのか「**悟りを開いた**」状態です。悟りを開いた状態とは、私達が持っている欲をコントロールできる状態のことです。自分の我がままな欲をコントロールしつつ、人のために自分の出来ることを喜んでさせていただく。これをやったら褒められるんじゃないか？

何かの形で返って来るんじゃないか？

みたいな下心で人に尽くすのではなくて、見返りを求めない、ただただ相手のことだけを考えて、相手を喜ばせてあげたい、幸せになってもいい、そのために多少しんどい思いをしたとしても、人から無駄だと思われようなことも、自分にできることを尽くさせていただく。それをしてもらった人の気持ちも救われ、その姿を見て、また自分自身も喜びに満たされる…これが善行。善い行いの慈悲の実践ということが言えると思います。これを**自利他円満の成仏**と言います。仏教が本当に目指している悟りの世界がここにありまます。その人を想い、あなたがお唱えするお経の声は、亡き親や御先祖様に届いていると思います。またその声を聞いて、その慈悲の念を感じ取って、亡き魂は、どれほど励みになつていらつしやるか分かりませんよ。感謝と報恩の気持ちを捧げる場である法事法要を忘れる事なく執り行いつつ、**自利他円満の成仏**を目指して、日々の善行に励んで頂ければ幸いです。御座います。今日のお話があなたの魂に響き伝わっていたら幸いです。御座います。

合掌 副住職 谷川寛敬

こんな住み職を見たことない
YouTube かんちゃん住職
チャンネル登録

チャンネル登録

グッドボタン

YouTube 寛敬の部屋